

ODIP アドミニストレータ 3.3 リリースノート

2017/02/01

(株) インテリジェント・モデル

- ODIP は、（株）インテリジェント・モデル社の登録商標です。
- 本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、（株）インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。
- 本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

## 目 次

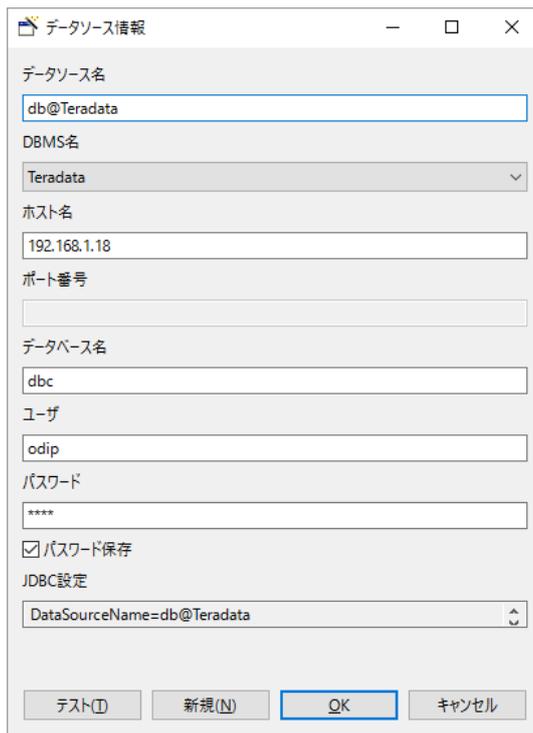
A.	機能追加・拡張 .....	4
1.	Teradata への対応 .....	4
(1)	データソースに「Teradata」を追加 .....	4
(2)	インデックスの種類に「プライマリ」を追加 .....	5
2.	MIDMOST への対応 .....	5
B.	その他の変更と修正の履歴 .....	6
(1)	定義の検査で検出されるエラーのオプション化 .....	6

## A. 機能追加・拡張

## 1. Teradata への対応

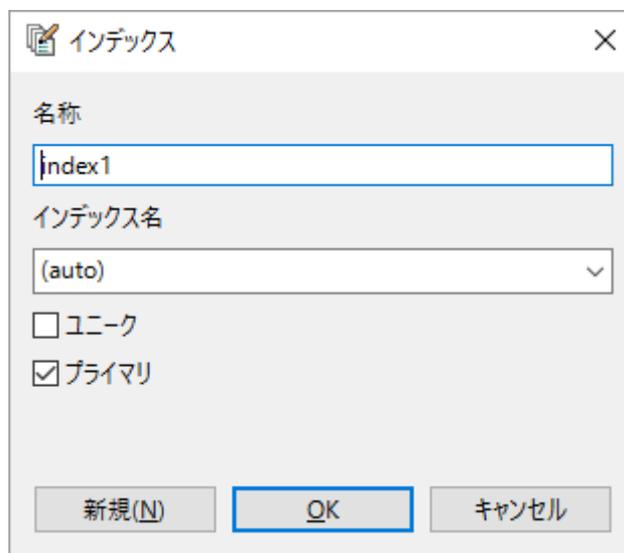
- (1) データソースに「Teradata」を追加

データソース情報の DBMS 名に、「Teradata」が追加されました。



No.	項目	説明
1	データソース名	任意のデータソース名になります。
2	DBMS 名	Teradata Database を使用する場合は「Teradata」を選択します。
3	ポート番号	DBMS 名に「Teradata」を選択した場合、ポート番号の指定はできません。
4	データベース名	TDPID を指定してください。 ここで指定した値は、ODIP トランスフォーマサーバから実行される tbuild コマンドの、TPT スクリプト内の TdpId として使用されます。
5	ユーザ	Teradata データベースへ接続するユーザ ID を指定してください。 指定したユーザ ID は、デフォルトのスキーマ名 (Teradata の"データベース名") として使用され、ODIP が実行する SQL は"ユーザ ID. テーブル名"になります。 (スキーマの指定がデータセットにあれば、"スキーマ名. テーブル名")
6	パスワード	Teradata データベースへ接続するユーザのパスワードを指定してください。

## (2) インデックスの種類に「プライマリ」を追加



インデックス

名称  
index1

インデックス名  
(auto)

ユニーク  
 プライマリ

新規(N) OK キャンセル

データセット定義画面のデータセット・インデックスで、「プライマリ」を指定できるようになりました。「プライマリ」にチェックがあり、かつ DBMS が Teradata の場合、ODIP が実行する CREATE TABLE で、指定されたカラムに PRIMARY INDEX を作成します。また「ユニーク」かつ「プライマリ」の場合は UNIQUE PRIMARY INDEX を作成します。

Teradata 以外の DBMS を使用している場合は「プライマリ」のチェックあり・なしにかかわらず、実行される SQL は同じになります。

## 2. MIDMOST への対応

データソース情報の DBMS 名に、日本ユニシス株式会社のミドルウェアである「MIDMOST」が追加されました。

「MIDMOST」は処理の入出力テーブルとしては指定できますが、トランスフォーマ・リポジトリのデータソースとしては使用できません。トランスフォーマ・リポジトリのデータソースには SQL Server 2008 など、「MIDMOST」以外の DBMS を指定してください。

## B. その他の変更と修正の履歴

### (1) 定義の検査で検出されるエラーのオプション化

プリファレンスの[定義の検査]の指定にかかわらず、以下の場合に定義の検査でエラーとなっていました。[定義の検査]から[導出式の結果が、導出先の属性の桁数よりも大きい]の指定によって[エラー]、[警告]、[無視]を選択できるように変更されました。

- ・ 入力データの選択属性で指定した別名の属性の桁数が、元属性のカラムの桁数より大きい場合かつ、属性のデータタイプが数値型の場合
- ・ 導出演算の計算式で Pad 関数、Instr 関数、Mod 関数が返す結果の長さが、導出項目のカラムの桁数を超過している場合

以 上